

この号の内容

- ① 医師臨床研修のあゆみ ～医師として一步を歩みだす皆様方へ～
- ② 先輩からのメッセージ
- ③ 東日本大震災と「JMAT おかやま」の活動
- ④ 職場、家庭での男女共同参画
- ⑤ 第9回岡山ビジョンナ会講演会の報告



岡山県医師会

URL <http://www.okayama.med.or.jp/index.html>E-mail oma@po.okayama.med.or.jp

医師臨床研修のあゆみ ～医師として一步を歩みだす皆様方へ～

岡山県医師会 会長 丹羽 国泰

皆様方は6年間医学生として医学を学ばれてこれ、医学知識を豊富に持たれて卒業し、そして国家試験をパスされて医師の免許を獲得されました。

これからは、医師として臨床の第一線に立たれるわけですが、今まで学ばれた医学知識をフルに活用されて、患者さんの診断・治療に役立たせてください。患者さんとの対面・応対も臨床にとって重要な要素です。

患者さんをはじめ周囲の人々への対応がこれも重要になってきます。患者さんをはじめ、周囲の人々への思いやり、心遣いの気持ちが大事です。

これからは、医学知識を基盤にして、患者さんの診察、説明、治療、等々患者さんへ向き合うことが多くなり、医師の教養・人格が試されることとなります。

また、医療は医師、看護師、薬剤師、放射線技師、臨床検査士、介護士等々、多くの職種の人々が協力して行うチーム医療です。医師一人では何も出来ません。医学知識を基盤に、医療技術を学びそれを向上させて、患者さんに役立たせるためには、多くの人々の協力が必要です。

医師としては初心者です。最大限努力し、そして虚心坦懐で前へ前へと進んでください。

先輩からのメッセージ

岡山労災病院 整形外科 三宅孝昌 先生

こんにちは。岡山労災病院 整形外科に勤務しております三宅孝昌と申します。私は、医師になって3年目ですが、初期研修の時から岡山労災病院で研修をさせていただきました。最初は、何をしたらよいのか全く分からず、病院の中でも迷子になるような状態でした。しかし、上の先生方から「まず病院に慣れる」と言われ、ゆっくりであっても自分なりに頑張れば良いのだと、それまで肩に力が入っていたのがふっと抜けたのを覚えています。

私は、医学生の中から整形外科志望でしたが、研修で回らさせて頂いた科では、手技を含め色々な事を経験させていただきました。現在は整形外科で働いていますが、患者さんの中には高血圧や糖尿病など内科疾患を既往としてお持ちの方もおられ、

また救急、外来で患者さんに説明をする時や治療計画を立てる際に、初期研修時代で経験した内科の知識や、学んだことが役に立つことも多くあります。志望する科が決まっている人でも、自分には関係ないからと毛嫌いせず、どんどんやって欲しいと思います。研修は、自分のやる気次第で有意義にもあまり意味のないものにもなると思います。

また、同期の医師、看護師やコメディカルの皆にも随分助けられました。仕事で失敗したり、うまくいかず上の先生に怒られたり…。そんな時は、話を聞いてもらい、また頑張ろうという気持ちになりました。さらに、同期がすでに経験していることを、自分が経験していなくて焦ったりして、自分を研鑽していく上でも同期は大切だと思います。

研修病院は様々であり、自分の希望する通りのことができない場合もありますが、全ては自分の糧になると心に留めて、時には同期や仲間と遊んで息抜きをしながら、それぞれの病院で楽しい研修を過ごして下さい。

ミニレクチャー

東日本大震災と「JMAT おかやま」の活動

岡山県医師会 救急災害担当理事 **松山 正春**

東日本大震災の発災から3月11日で2年の歳月が過ぎた。1万8000人の死者、行方不明者を出したこの災害を深く記憶に刻んでおかなければならない。阪神淡路大震災から得た教訓は生かされただろうか。東日本大震災の我々の初動は発災から8時間後だった。これでは、近い将来に予想される南海トラフ震災に対処できない。「JMATおかやま」の活動を検証することで、次なる災害に備えなければならない。

JMAT (Japan Medical Association Team) のコンセプト

JMATはプロフェッショナル・オートノミーに基づく会員への呼びかけによって編成することが基本である。JMATは被災県医師会からの要請に従って出動し、受け入れに際しては、被災県医師会・都市医師会がコーディネイト機能を果たし現地の医療状況を把握し、受け入れチームの配置等の決定を行う。被災地の医療機関が再建された時には、スムーズに引き継ぎ撤収することが肝要である。

JMATの業務は、主として避難所における医療の実施、被災地医療機関の日常診療の支援であるが、避難所や避難者の状況把握等の公衆衛生活動を実施し、必要に応じて行政に改善の要請を行うことも含まれる。

東日本大震災における岡山県医師会の対応

岡山県医師会では、3月12日に岡山県医師会災害対策本部を設置し、第1次隊を福島県いわき市に派遣することを決定し、井戸、松山、遠藤の3隊員が12日午後に出発した。第2次隊は交通事情を考え、岡山県警と帯同することとしたが、今回の震災の特殊性から県警の災害支援活動が、発災7日目で終了し、日常生活支援に変わり帯同が不可能となり、第2次隊は幻の隊となった。このような経過を経て医療救護活動は「JMATおかやま」の派遣に移っていった。

「JMATおかやま」の結成

3月15日「JMATおかやま」参加者の募集を開始した。3月23日には応募総数は約100人に上り、「JMATおかやま」の医療救護活動が継続しておこなえると確信を得た。それにしても医師、看護師等医療従事者の災害救護に対する意識の高さに感服させられ、同時に、岡山県医師会の底力を感じた。

また、岡山県薬剤師会と連携し「JMATおかやま」への薬剤師の帯同の道も開かれ、「JMATおかやま」は医師1人から2人、看護師1から2人、薬剤師、ロジ1人で構成した。

JMAT派遣先、交通手段

JMATおかやま第3次隊(23.3.20出発)の派遣は不安そのものであった。現地の混乱で派遣先が決まらない、通信手段の確保、道路情報の欠如、ガソリン不足等の問題は山積している中での出動であった。

第4次隊からは、石巻合同救護チームの傘下に入り石巻市湊小学校避難

所で医療救護活動を継続して行うことが決まった。東京以遠の交通手段について検討する中で、両備グループから車両提供の申し出がありこの問題をクリアーできた。この支援がなければ、「JMATおかやま」の活動の継続が不可能になるところであった。第5次隊(23.3.31~4.6)からは、空路羽田空港、そこから石巻市までタクシーでの移動となった。現地ではレンタカー(岡山県医療用自動車協会提供)を使用して活動することになる。

「JMATおかやま」の医療救護活動

湊小学校避難所は旧北上川東地区(エリア7)を担当していた。湊小学校避難所には震災直後の12日、13日には1千人以上の避難者がいたが、「JMATおかやま」が活動を開始した3月末頃には700人~600人になっていた。午前7時に石巻赤十字病院で全参加チームが集まるミーティングで1日が始まる。その後、湊小学校に移動し医療救護活動を行い、活動終了後は再び石巻赤十字病院でのミーティングで一日の活動が終了する。伊木勝道先生(H23.5.26~30)の報告によると湊小学校仮設診療所における患者数、受診時の症状は別表の如くで、咳、痰、咽頭痛、鼻水が43%を占めた。咳、咽頭痛に着目した耳鼻科江谷勉先生(H23.6.7~10)は石巻市で健康調査と環境調査を行っている。その結果、石巻で多発している咳症状について、その原因は臨床データ、浮遊粉塵の分析、降下粉塵とヘドロの分析結果から総合的に判断すると、粉塵の化学的刺激性や異物反応、感染等複合した要素が影響していると結論づけ、対策としてマスクの使用を提言した。この提言を受けて、石巻合同救護チームはN95マスクを配布し、咳症状は激減し、合同救護チーム石井先生からの調査は高く評価された。

また、片岡仁美先生(H23.6.1~4)は、検査等の手段は限られており、手持ちの聴診器しか頼れるものはありません。身体診察と医療面接を十分に行うことで、内科的に介入できるポイントが複数あることに気づいた例もあった。医療面接と身体診察のみでこんなに喜んでもらえるなんて、診療の原点に戻った感動を報告されている。

「JMATおかやま」の活動は102日間に及び医師36人、看護師38人、薬剤師28人、事務員20人合計122人に及んだ。幸い参加者にPTSD等二次災害の発生もなく無事にミッションを終了することができたことを感謝している。

岡山県医師会の今後の活動

南海トラフ地震が30年内に起こる確率は60%、50年以内に起こる確率は90%と言われている。今回の東日本大震災の教訓を生かしての「JMATおかやま」の活動を考えなければならない。平時からの隊員の教育、今回のようにDMATとは一線を画した慢性期医療に特化するにしても相応の教育は求められる。

一方で被災地になった時、支援のJMATチームの受け入れ等の任務を行なう災害コーディネーターの育成も急務である。被災時の情報の収集、情報の発信の手段の確保も是非準備をしておかなければならない課題である。岡山県医師会に求められる課題は多いが、南海トラフ地震に備えた対策を着実にやっている。

詳しくは、「東日本大震災JMATおかやま報告書」(岡山医師会編)をご覧ください。

表1

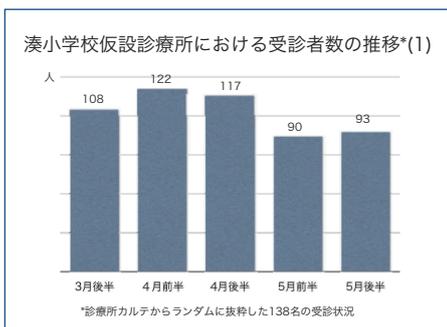


表2

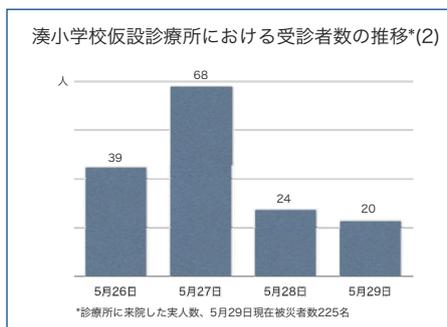
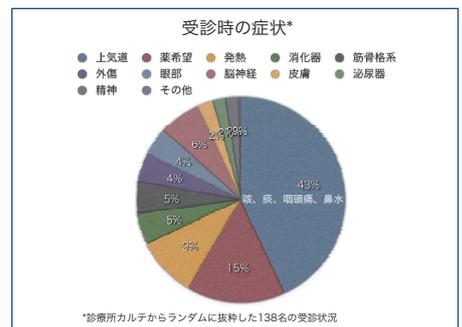


表3



第6回 Doctor's Career Café in OKAYAMA (2012.11.17)

「職場、家庭での男女共同参画」

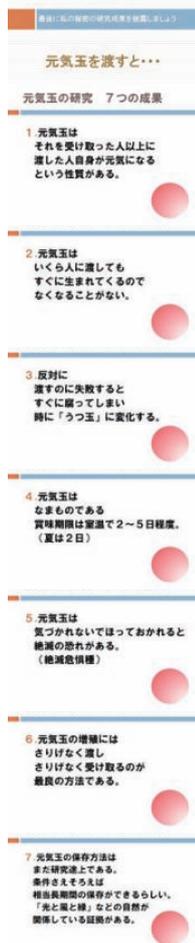
岡山県精神科医療センター 理事長/岡山県医師会 理事 **中島豊爾**



男女共同参画とは、男も女も同じように社会に対してできることはどんどん貢献して行くことです。男女共同参画社会を達成するには、妊娠・子育てという部分に十分な社会的支援が行き届くことが必要です。医療の現場においては妊娠・子育てという期間のマイナスをマイナスにならない様にシステム作りをしていくこと、家庭においては父親が育児休暇を取るような、多種多様な家族形態ができることが容認される社会が望ましいとされます。

竹内久美子氏は京都大学理学部出身の動物行動学者ですが、その著書「そんなバカな！一遺伝子と神について」の中で男性を繁殖戦略から4つのタイプに分けています。文系男に理系男、ケチ男にバクチ男です。一番割合の多いケチ男の繁殖戦略とは細かいことを言い、妻が実家に帰るように仕向け、あわよくば妻の実家で子供を育て、経済的負担を負ってもらおうという作戦です。しかし、そんなケチな男のところにはそうそう次の嫁は来ませんので、DNAの繁殖には至りません。バクチ男は女性に優しく当たりはよいが、家にお金を入れず、バクチに使ってしまい、生活が破綻してしまうので妻は実家に帰ってしまいます。そうするとすぐに次の女性が家にやって来て、バクチ男の反復繁殖戦略は成功します。理系男は女性にあまり興味がなく、研究や仕事に打ち込むタイプです。他の女性に目を向けるより、いかに研究中の技術を向上できるかに興味があるので、男としての魅力には少々欠けるかもしれません。文系男は女性から見て「悪い男」ですが、魅力的で女性にもてます。いつ浮気をするかもしれないので、操縦に技術が必要です。これら男性の4タイプ、パートナーがどのタイプに属するか考え対処するのが良いと思います。

最後に「元氣玉研究」について紹介します。医師となって数年目、日々の診療に行き詰まりを感じていた頃ある患者に出会いました。まじめに通院する人で、この人は何のために通院しているのだろうかと思っていましたが、ふと、「この人は僕を喜ばせるために来ているのではなからうか」と気づきました。つまり、その患者さんは後ろに元氣玉を隠し持ってそれを渡そうと思って通ってきていたのですが、若かった自分はそのことに気づいていませんでした。元氣玉は人に渡せば渡した本人ももらった人も元氣になり、尽きることなく生まれてきますが、賞味期限のあるものなので渡しそびれると「うつ玉」に変化します。元氣玉はさりげなく渡したり受け取ったりすることによってのみ増殖できる絶滅危惧種ですが、元氣玉も条件がそろえば保存できそうです。社会においてやりとりができていればいいですが、夫婦間、子供との間といった家庭内でやり取りしていればどんどん増殖させることができます。世の中に元氣玉が増えれば暮らしやすい社会になるでしょう。



第7回 Doctor's Career Café in OKAYAMA (2013.1.12)

第9回岡山ビジョナ会講演会の報告

岡山市立市民病院 診療部長 坂口紀子
岡山県眼科医会 副会長/岡山県医師会 女医部会副会長

岡山ビジョナ会は、岡山県眼科医会の女医部会としてスタートしました。会の名称は、ビジョンに関わる仕事をする備前、備中、美作の女医の会、そして心映えを美しくという願いを込めて名付けられたものです。近年は他県の眼科女性医師や男性医師の参加も増えました。今年は1月12日、Doctor's Career Caféとして講演会が開かれました。

特別講演1は藤田善史先生(徳島市・藤田眼科院長)の「多焦点眼内レンズの臨床について」でした。藤田先生は多くの手術や診療をこなされる傍ら、これまで22回に及ぶマンマでの眼科医療活動でも有名で、造詣の深い絵画のお話も交えたご講演でした。

特別講演2は、お母様とお二人の娘さんによるグループ講演でした。まず大内通江先生(岡山大学昭和35年卒、元香川県眼科医会会長、高松市・大内胃腸科眼科病院)の「私の眼科医生活五十年～しなやかにたくましく歩んで～」です。終戦を小学生で迎え、農地改革で失意の父親を見て女も仕事をしなければと思ったこと。大学進学を反対され、母の実家に家出をしてようやく許可を得たこと。食事は手作りし家族で食卓を囲んできたこと。長女の産休は産後の9日だけだったこと。大学病院の前に借家を借りて、おしめ替えや授乳は仕事の合間に抜け出してやったことなど、淡々とお話されましたが、一世代上の先生のゆるぎない心意気を感じました。教員であった祖母様から聞いた「金剛石も磨かずば珠の光はそぞらむ 人も学びて後にこそ真の徳はあらわるれ」(昭憲皇太后作)を座右の銘にされているとのことでした。

次に長女の田邊晶代先生(京都大学卒、大阪・北野病院眼科副部長)は、「自分の好きなことを見つけましょう、子供は皆で育てましょう」と題して、ご講演くださいました。留学から帰国後、2人の子育て時期に、京大で助手・講師として臨床をこなされました。「心身ともに元気で、よき理解者や協力者をもつ。時間をお金で買うことも必要。時間軸の中でバランスをとる。モチベーションを保つことが大切。」と述べられました。

最後は、岡山大学眼科から京都大学助教授、徳島大学准教授を経て、岡山大学に戻られた次女の大内淑代先生(岡山大学・細胞組織学分野教授)の「網膜発生分化のしくみと網膜機能の多様性」についてでした。光受容体物質である杆体オプシン、錐体オプシン、メラノプシン以外に、オプシン5という新しいオプシンが網膜にあることを発見し、これらは、網膜での光受容が視覚以外の多様な機能に利用されていることを示唆することなどをご講演下さいました。

講演2の3人の先生方は、開業医、勤務医、研究者とそれぞれが異なった立場で仕事を続けられています。社会に貢献し輝いて生きるには眼科医師としても様々な形があり、また仕事を続けることは決して子供の成長に対しマイナス要因になるものではないことを示して頂いたと思います。

講演会後の懇親会は、白神史雄香川大学教授(当時)のピアノ演奏、守屋剛志さんと中山恵さんのバイオリン・ピアノのデュオ、会員の近況報告スライドなどがあり、有意義で楽しかった時間が締めくくられました。



第5回 Doctor's Career Café in OKAYAMA

「D+Muscat」

平成24年11月10日(土) 無事終了いたしました。

■ Session1

「皮膚真菌症をもっと身近に」

岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科皮膚科学分野 准教授 青山 裕美 先生

■ Session2

「D+Muscat 症例検討会」

第9回 Doctor's Career Café in OKAYAMA

「地域に女性医師のパワーを」 出前授業に出かけよう

●日時：平成25年3月23日(土) 15:00～17:00

●場所：MUSCAT CUBE (岡山大学鹿田キャンパス内)

●プログラム：

■ 講演

「メール相談からみた今の子供達に必要なこととは」

ウィメンズクリニック・かみむら 院長 上村 茂仁 先生

お知らせ

学会出席時に託児施設をご利用下さい

岡山駅前の託児施設に学会出席中の託児を特別料金でお願いしています。利用には岡山県医師会保育支援事業への申し込みと託児施設への事前予約が必要です。詳しくは岡山県医師会へお問い合わせ下さい。

岡山県医師会主催の教育講座等への出席の際の会場での無料託児は従来どおり行っております。ご利用下さい。

詳細は <http://www.okayama.med.or.jp/topcontents/joseishi/youkou.html>

編集後記

マンサクの木に黄色い花を見つけました。桜の蕾も膨らんで春がそこまで来ています。平成23年度に始めました研修医登録制度は2年が過ぎ、初年度に登録して下さった皆様は臨床研修を終えられ専門研修に入られることと思います。新しいポジションでの活躍をお祈りします。

未曾有の被害をもたらした東日本大震災から2年たちました。ミニレクチャーは救急医療を担当されている松山理事の「東日本大震災と『JMATおかやま』の活動」です。岡山県医師会では石巻での経験をもとに将来起こるであろう南海トラフ地震に備えるための活動を開始しています。

Doctor's Career Café in OKAYAMAも8回目を終了いたしました。第5回は皮膚



ガイダンス
「医師の職業倫理」
清水信義先生
(岡山県医師会副会長)

特別講演
「医療倫理
—りんりどすずむし—」
栗屋 剛教授
(岡山大学生命倫理学)

iPad mini が当たる
大じゃんけん大会
NPO 法人岡山医師研修支援機構

2013.4.4 THU 17:30- WELCOME 研修医の会 ホテルグランヴィア岡山 フェニックス

オリエンテーションプログラム「医療倫理」

岡山県医師会では NPO 法人岡山医師研修支援機構と共に、岡山県内の各臨床研修指定病院で臨床研修を開始されます研修医を歓迎し、出身大学も異なり研修病院も多様な研修医の皆さんに岡山の医療人としての結びつきを持ってもらいたいという思いを込めて、船出を祝う会を企画しました。

平成 25 年度新臨床研修医全員の参加をお待ちしています。

岡山県医師会
NPO 法人 岡山医師研修支援機構

問合せ先
岡山県医師会
岡山市中区古京町 1-1-10
Tel 086-272-3225
(担当：河原)

岡山県医師会の ソーシャル・ネットワーキング・サービス



<http://sns.okayama.med.or.jp/>

■ 表紙の写真「春の浜離宮恩賜公園」 撮影者 岡山大学病院 研修医2年 大林芳明先生

科の女性医師たちの勉強会「D+Muscat」です。第6回は医療の現場で男女共同参画を考えてみようをテーマに「医学生・研修医をサポートする会」を開催しました。ご講演くださった中島豊爾先生の「職場、家庭での男女共同参画」を考える上での「元気玉」研究の報告をお伝えします。第7回は岡山県眼科医会「ビジョンナ会」です。3世代の女性医師による講演は眼科医として社会に貢献する様々な形があることを示されています。第8回は神戸大学の杉本真樹先生のご講演「医療イノベーションは『可視化』から『可触化』へ。モバイルITと3Dプリンタによる次世代医療の可能性」でした。詳細は次号でご報告します。

平成25年度は岡山で臨床研修を開始される研修医の皆さんの歓迎会を開催いたします。縁あって岡山で研修される皆さんが集まれる機会を提供できますことを喜んでおります。